

卒業論文

「ヒーロー」と「ヒロイン」のパラドックス

2012 年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2016 年 1 月提出

要約

本論文では、アニメや漫画作品におけるヒーロー、ヒロインキャラクターがどのようなジェンダー的变化を述べてきたかについて分析する。漫画やアニメといった、サブカルチャーの観点からジェンダー規範について社会的に分析、考察されているものはまだ少ない。しかしながら、サブカルチャーは人々の欲求や願望の反映であり、特に漫画やアニメにおいてはそれらが可視化されやすい。そこで、漫画やアニメ作品を通して、男らしさの表象であったヒーロー、女らしさの象徴であったヒロインがどのように変化し、今現在どうなっているのかを分析することで、これからの男性、女性の「らしさ」がどうなっていくのかを考察することが本論文の目的である。

第1章は、サブカルチャーとは何か、そしてなぜサブカルチャーのなかでもわざわざ「漫画やアニメ」を題材として選択したのかを述べている。その後、漫画やアニメの内包するセクシュアリティとその働きについて考察を加え、まとめている。

第2章では、漫画やアニメを通してジェンダーを分析した先行研究のまとめを行っている。ここでは「魔法少女」、「かわいい」といったキーワードをもとに、特に女性、そして少女のジェンダーが漫画やアニメをどのように受容し、逆にジェンダーが漫画やアニメにどう影響しているのかについてまとめている。

第3章では、まず戦後すぐから昭和後期までのヒーローとヒロインのプロトタイプを『初代仮面ライダー』、『魔法使いサリー』から分析している。ここで、ヒーローとヒロインはそれぞれ男らしさ、女らしさという、日本の伝統的なジェンダー表象であることを再確認する。その後、今度はヒーロー、ヒロインが変化したかたちである、かぎっこ付きの「ヒーロー」、「ヒロイン」とは何なのか、『ジョジョの奇妙な冒険』シリーズ、『美少女戦士セーラームーン』シリーズをそれぞれ例にあげてその特徴、変化を分析している。

第4章ではこれまでのまとめを行い、「ヒーロー」はよりフェミニンに、「ヒロイン」はよりマスキュリンになっていることが判明する。なぜヒーローは「ヒーロー」に、ヒロインは「ヒロイン」になったのかを考察し、加えて今後この状況がどのように変化していくかを論じて、本論文を締めくくっている。

目次

はじめに	1
1 サブカルチャーと漫画・アニメ	2
1.1 サブカルチャーとは	2
1.2 キャラクターのセクシュアリティ	2
1.2.1 男性向け作品における女性キャラクター	2
1.2.2 女性向け作品における男性キャラクター	3
1.3 創作としての漫画・アニメの影	4
2 先行研究の整理	6
2.1 はじめに	6
2.2 「少女」と「ガールヒーロー」	6
2.3 「かわいい」とフェミニティ	8
2.4 小括	9
3 「ヒーロー」と「ヒロイン」分析	10
3.1 これまでのヒーローとヒロイン	10
3.1.1 ヒーロー作品の歴史	10
3.1.2 魔法少女ものの歴史	13
3.2 ヒーローとヒロインのプロトタイプ	14
3.2.1 ヒーローのプロトタイプ	14
3.2.2 ヒロインのプロトタイプ	16
3.2.3 ヒーロー像とヒロイン像	19
3.3 「ヒーロー」キャラクターの分析	20
3.3.1 『ジョジョの奇妙な冒険』を扱うにあたって	21
3.3.2 ヒーローから「ヒーロー」への移行	23
3.4 「ヒロイン」キャラクターの分析	37
3.4.1 『美少女戦士セーラームーン』とは	37
3.4.2 セーラームーンのフェミニティ	38

3.4.3	ヒロインと「ヒロイン」	40
3.4.4	男性のヒロインと女性の「ヒロイン」	40
3.4.5	「ヒロイン」とガールヒーロー	41
4	「ヒーロー」と「ヒロイン」のパラドックス	43
4.1	はじめに	43
4.2	「ヒーロー」キャラクターとは何なのか	43
4.3	「ヒロイン」キャラクターとは何なのか	43
4.4	戦いたくない「ヒーロー」と戦いたい「ヒロイン」	44
4.5	戦い疲れた「ヒーロー」と「ヒロイン」	44
4.6	「ヒーロー」と「ヒロイン」のこれから	45
	おわりに	47
	参考文献	48